

地震リスク解析 FrameRisk

地震リスク解析支援ツール

プログラム価格
¥129,800
(税抜 ¥118,000)
Windows 11 対応

従来の耐震設計は、「これだけの地震に耐えられる」ことを照査し、地震リスクは、「これだけ壊れるかもしれない」ことを示します。これらは、信頼性理論に基づく数学的処理が必要ですが、「地震リスク解析FrameRisk」では簡単に算出可能です。

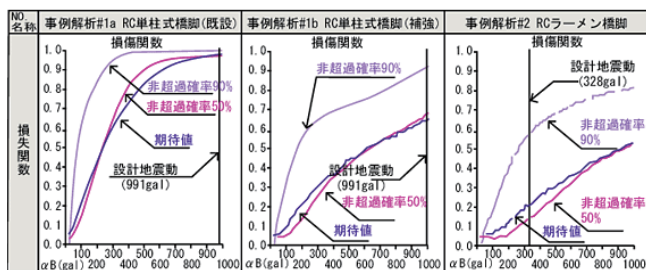
【リスクとは】

- 「将来における不確かな損失あるいは不利益」と定義でき、様々な意思決定に利用される工学的指標となる。地震リスクは、地震の発生確率と地震発生による損傷または被害をセットで示す。数学的に表現すると、『地震リスクR=損失の発生する確率p×損失の規模D』

【地震リスクの活用方法】

- 旧来の仕様書、最新の耐震基準などが混在する場合、耐震性能の良否を統一的な指標にて評価可能
- 既設の耐震化優先順位付け、耐震補強戦略などの、定量的評価法
- 建物・土木施設の被害額を予測する際、ばらつきを見込んだ最悪の損害額
- 不動産証券化におけるPML (Probable Maximum Loss) という耐震性能指標の、土木系社会基盤施設への適用

FrameRiskによる計算例：単柱式橋脚



道路損傷 情報システム

初期費用
¥550,000
(税抜 ¥500,000)

月額費用
¥88,000
(税抜 ¥80,000)

サーバー管理費
(月額)
¥165,000
(税抜 ¥150,000)

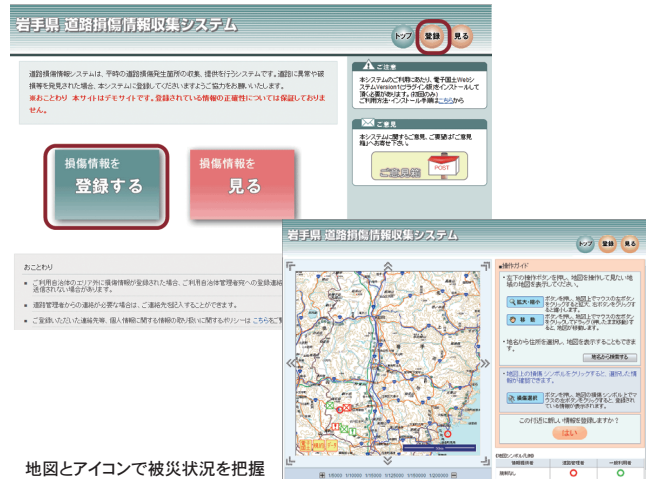
平時及び災害時の道路損傷発生箇所の
収集、提供を行うシステム

一般の方による道路情報の閲覧・登録、道路管理者による道路情報の管理が可能。全国運用も可能で、一部自治体で導入運用されています。

【適用基準・参考資料】

- 土木施設長寿命化計画、橋梁ガイドライン本編
- 土木施設長寿命化計画、橋梁ガイドライン実践編
- 土木施設長寿命化計画、橋梁点検マニュアル
- 橋梁点検結果報告書作成要領(案)

災害情報を「見る」「登録する」ことが可能



地図とアイコンで被災状況を把握

BCP作成支援ツール

BCP(事業継続計画)作成の
サポートツール

プログラム価格
¥107,800
(税抜 ¥98,000)
Windows 11 対応

BCP (business continuity plan: 事業継続計画) 作成支援ツールは、被災時に、社員の配置を倒壊危険や火災危険度、地震リスクなどのハザードマップと重ね合わせて地図上で確認、緊急時の配置計画に利用できます。

【社員の位置表示】

- 電子国土Webシステムを使用
- 社員情報は、CSVファイル形式で一括登録することが可能
- 社員の住所は自動的に緯度経度に変換し、地図上で表示
- 拠点・スタッフの位置を地図上に表示。プロジェクト毎のフィルタ表示も可能
- グループごとに職員の表示/非表示を切り替える機能

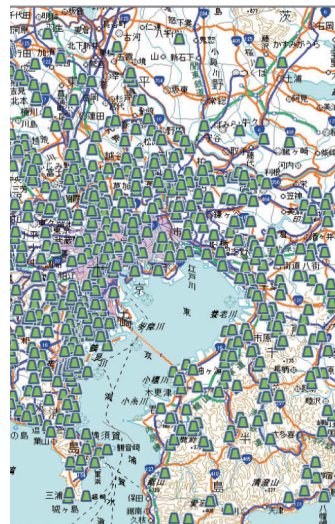
基本画面



【ハザードマップの重ね合わせ表示】

- 社員の位置表示以外に、地図上に画像を重ね合わせて表示可能
- BCP作成における震災想定時、建物倒壊危険度と社員の自宅の位置を重ね合わせ、震災発生直後の復旧要員の選定、帰宅困難社員の特定、事業継続時における社員の配置検討(通勤の可否の検討)などに利用可能

スタッフ位置の表示



BCP非常時連絡アプリ

